



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 337名 令和7年1月8日(水)



「令和7年のスタートに思うこと」

校長 小川 哲

明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのことと存じます。1月6日に出勤した際、学童に来た児童、保護者の方の「おはようございます」「今年もよろしく願います」という声、校庭に遊びに来ていた児童の「校長先生、明けましておめでとうございます！今年もよろしく願います！」の音が嬉しかったです。

年末、年始と様々なスポーツの大会がテレビ等で報道されていました。皆さんは、何か観ましたか。私は、例年どおりですが高校サッカーや箱根駅伝が中心となりました。その中で、選手たちのインタビューの言葉がとても印象深く残りました。誰というのでは

- 感謝の気持ち
- これまでやってきたこと
- 相手へのリスペクト
- これからのこと

はないのですが、主に左に挙げた4つの要素を述べているものが多かったように思います。これまでに嬉しい思いだけでなく、悔しい思いや苦しい経験をしてきたことでしょう。思うような結果が出せずに葛藤する姿もありましたが、どの選手も4つの要素に関わって

思いを述べていました。このような心持ちになれるのは、日頃の考え方、生活や言動も含めて、人間性が成長したという現れではないでしょうか。それぞれの選手やチームの物語に思いを巡らせ、競技の姿も含めてたくさんの感動をいただきました。そして、指導者の声も感じるものがありました。箱根駅伝で走り終えた選手にこれまでは「ご苦労さん！」という声がよく聞こえていましたが、今回は「ありがとう！」という声が多かった気がしました。お互いを尊重し合う関係や選手を取り巻く環境も大切だと感じ、私たち大人の言動も気を付けていかなければと改めて思いました。

これから子供たちが生きていく力の基礎となるところを育てている小学校では様々な取組をしています。11月から児童会と環境委員会が中心となって取り組んでいる「ホワホワ言葉の木」もその一つです。自分がかけて嬉しかった言葉を一つの実につけています。こういった経験も「自分の大切さを認めるとともに、他の人の大切さを認めることができる」子供たちの育成につながっていくでしょう。スタートした三学期はこういった一つ一つの取組を通して、力を培う共にこれまで学んできたものを発揮していく学期です。児童一人一人、学級、学年、桜町小の物語の学年末という節目に向けて、子供たちの成長を楽しみに三学期も前に進んでいきます！

